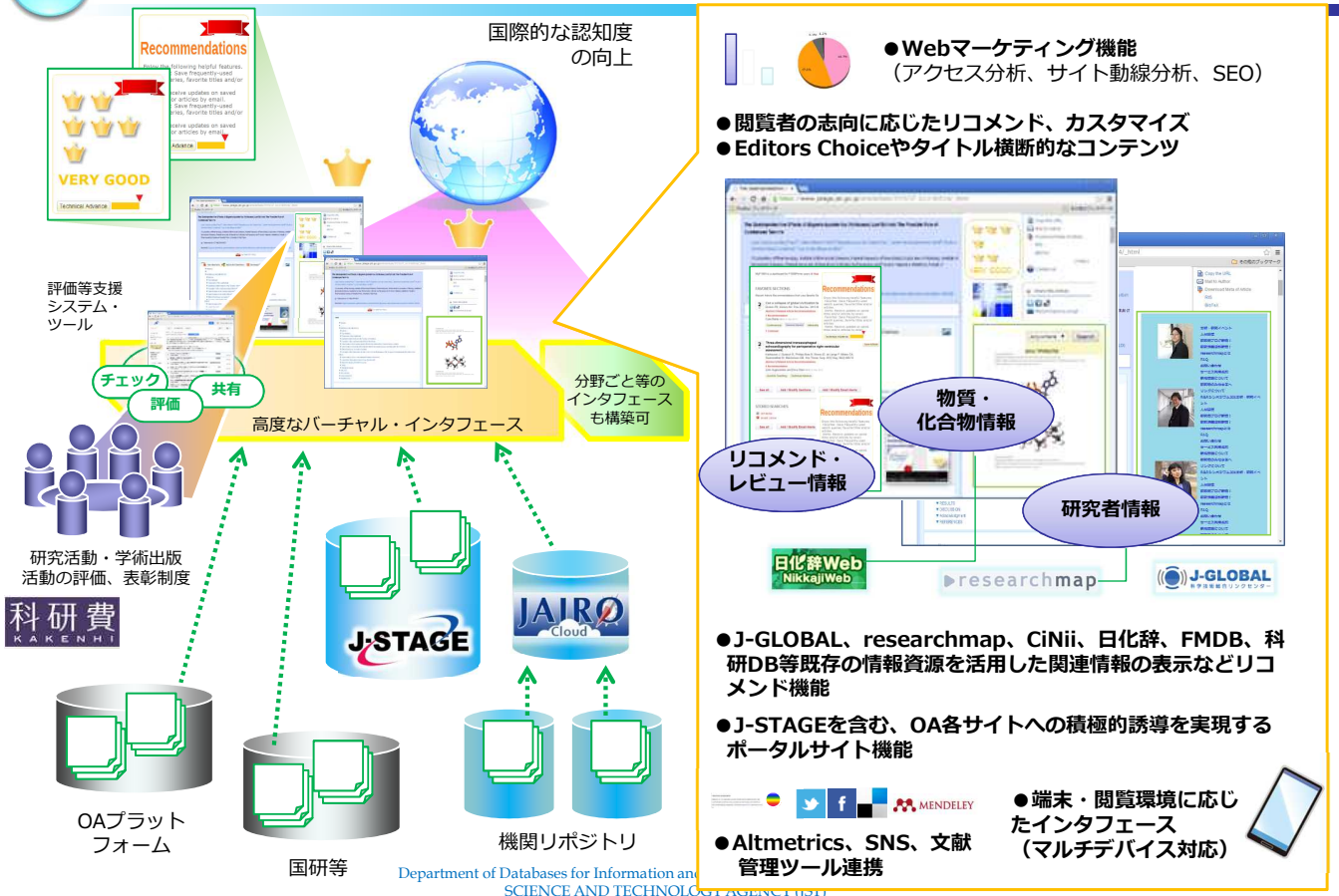


我が国の科学技術情報発信力 強化のための取組案について (検討中)

科学技術振興機構
2014年5月

商用サイトに匹敵するバーチャル・電子ジャーナルサイトの構築 (素案)





● JSPS、NII、JSTが連携した、我が国の科学技術情報発信力強化のための取組（素案）

- わが国発のエース論文を集約的に案内する、商用サイトに匹敵するマーケティング機能等を実装したバーチャルジャーナルサイトを構築する。
 - Webマーケティング機能
 - 被引用解析・アクセス解析（訪問者属性、サイト内動線等）レポート機能によるマーケティング戦略支援、SEO(サーチエンジン最適化)
 - 訪問者属性・志向に応じたリコメンド、カスタマイズ
 - 研究者情報、物質・化合物情報、ファンディング情報表示 等
 - デバイス（スマートフォン等）に応じた最適な表示を自動調整
 - SNS、Altmetrics、文献管理ツール等との連携
- バーチャルジャーナルサイトの運用は、JSPS、NII、JSTの共同運営体制とする。
- エース論文の評価・選定等においてはJSPSによる科研費の評価枠組み（国際情報発信強化、オープンアクセス支援）等と連動させる。
- コンテンツ掲載にあたってはNIIによるJAIRO Cloud等と連携を強化する。



海外における同様の発信力強化施策（メモ）

F1000 (FACULTY of 1000)

- 約5,000名の研究者による、論文の評価・推薦サイト
- Faculty of 1000 Ltd. が運営（原則、有償提供）
- 生命科学系が中心、約10,000記事の情報を収録
- 評価者による星の数（1～3）で論文をランク付け

F5000

- 中国国内の科学者による高レベルな業績を海外にプロモーションするためのナショナルプラットフォーム（ISTICが運営）
- 中国語論文中心（英語・中国語のレビューを付加するなどしている）
- 定量分析とレビュワーによる評価を総合し、約2,500記事を選定（拡充予定あり）
- Science Citation Indexの検索システムであるInCitesと連携

いずれのサービスも、本文は自身で持たない（それ自身が電子ジャーナルサイトではなく、収録先のジャーナルサイトにリンク等で誘導）ことにより、二重投稿等の問題を回避

（独自評価指標について）

- (例) 上海交通大学による世界大学ランキング (<http://www.shanghairanking.com/>)
- ※英国TIMES(Times Higher Education World University Rankings)等の並ぶ大学評価指標
- ※理工系の研究成果に重点を置いているのが特徴



バーチャルジャーナルサイトにおいて多彩な利用分析が可能となることで、わが国独自の論文評価指標を検討可能に



オープンアクセスへの対応（方針）

- JSTは、イノベーションを駆動する科学技術・学術情報のオープンな流通を強く推奨
 - 「オープンアクセスに関するJSTの方針」(平成25年4月)
http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf
 - JSTのファンディングによる研究成果については、**OAを義務化へ**(2014年3月13日 JST理事長)
 - 「誰もが研究成果を利用できるOAの環境確保は極めて重要。(中略)文科省では**OA環境の充実の観点から科学研究費の補助金やJSTの学協会の取り組みの支援を行うこと**、NIIの各大学における取組に対する支援などの促進策に取り組んでいきたい。文科省は研究者の一層の理解を得るところ含めて、**一層のOAの促進に今後とも積極的に取り組んでいきたい。**」(2014年5月13日参議院 文部科学大臣答弁要約：<http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>)
 - J-STAGEは、各利用学協会の積極的な参画により、本文情報をフリーで閲覧できる大規模電子ジャーナルプラットフォームとして国際的にも認知

J-STAGEは、オープンアクセス・オープンサイエンスのインフラへ



オープンアクセスへの対応（方針）

- フリー公開の推奨
 - 現在J-STAGE新規誌においては、本文をフリー公開するジャーナルを優先的に採択中。認証等を利用する場合であっても、12ヶ月程度までを強く推奨

既ご利用誌においても、フリー公開範囲拡大のご検討をお願い申し上げます。

～しかし、フリーアクセス = オープンアクセス (OA) ではない～

オープンアクセスの定義(平成24年7月 『有川委員会』※)

- 学術情報をインターネットから無料で入手でき、**技術的・法的にできるだけ制約がなくアクセスできるようにすること**
(※平成24年7月 文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会(有川委員会)「学術情報の国際発信・流通強化に向けた基盤整備の充実について」より)

J-STAGEにおいても、コンテンツの流通促進のためにはさらに踏み込んだ対応が必要



オープンアクセスへの対応（方針）

- フリー公開コンテンツのポリシー策定・浸透に向けて
 - J-STAGEでは、85%のジャーナルがフリー公開誌
 - しかし、フリージャーナルであっても、二次利用の扱い等、明確な公開ポリシーを定めている学協会様は相対的に少数の状況
 - 内外の閲覧者から、記事二次利用に係る明快な基準についての問い合わせが増加中（J-STAGEの使い勝手＝サービス品質にも直結）
 - フリーコンテンツについて、Creative Commonsライセンスに準拠するジャーナルプラットフォームが増加中
- J-STAGE上のフリー公開コンテンツについて、Creative Commonsライセンス等を利用した、二次利用の扱いを含むポリシー明確化を強く推奨することを準備中。当該ポリシーについては、学協会様において使い勝手のよい運用ドキュメントなどをまとめた「オープンアクセス・スタートキット（仮称）」を配布すること等を検討。

記事利用についての問い合わせ
対応から解放された！

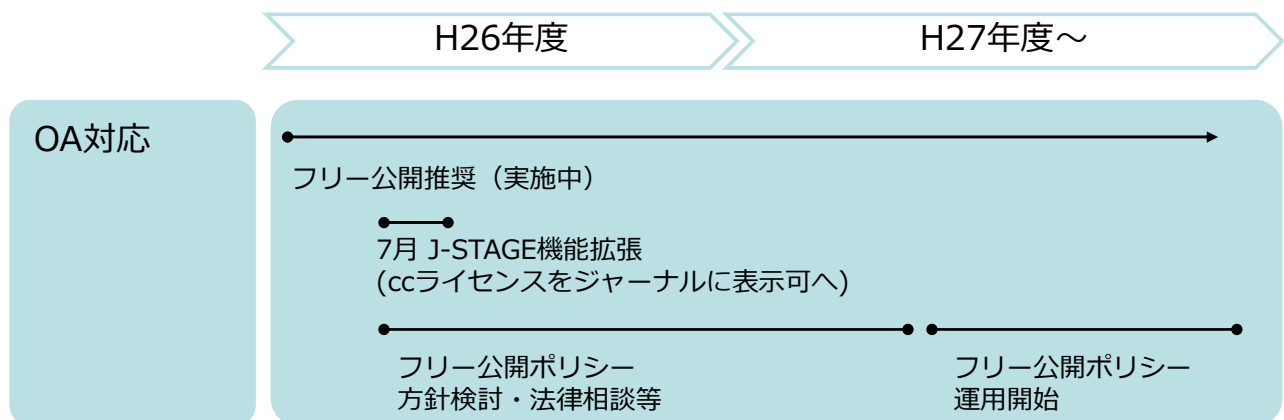
海外からのアクセス
が増えた！

学会の公益性を
担保！

※機能拡張として、ジャーナルごとに各記事にCCライセンス表示を行える機能を開発中（今夏リリース予定）



スケジュール（予定）



J-STAGEにおける今後のポリシーに関わる重要な観点も含まれますので、どうぞ皆様のご意見をお寄せください。